

商周青銅彝器の広がり 青銅器のGIS解析より

難波純子

天理大学

1. はじめに

中国初期王朝の成立、発展期に相当する、夏・商（殷）・周時代は、これまでに発見されている河南省偃師市二里头遺跡、同鄭州市鄭州商城遺跡、同安陽市殷墟、河南省洛陽市西周都城遺跡、陝西省西安市豊京、同鎬京遺跡、陝西省岐山南麓の周原遺跡などの中心遺跡を核として、中国初期王朝文化が開花していった時期とも言える。この時期の文化的な遺物の中で、最も注目を浴びるもののひとつに、青銅器がある。そして、特にこの時期の思想、政治の状況を象徴するものとして、青銅製の容器類、すなわち青銅彝器をあげることができる。青銅彝器については、従来さまざまな視点からの研究が進められてきた。近年新中国の発掘成果によって、新たな資料が提示され、分布域についての新たな認識が生まれつつある。すると意外にも、王都のある黄河中流域からはるか遠方の、長江中、上流域でも、地域色をもつ青銅彝器が製作され使用されていたこと、また、こうした広がりにはこの時期のさまざまな物資の流通が関連するのではないか、などの事実が判明しつつある。

本稿では、改めて青銅彝器の出土地と各種情報をデータベース化し、それをもとにGIS解析を試みて、青銅彝器の地域的な発達状況を明らかにする一助としたい。

2. 基礎作業 データベースをつくる

出土地の明らかな青銅彝器（容器類と樂器）について1点1点、遺跡所在地、世界測地系座標、遺構名、器種、時期、銘文、紋様、伴出品、法量、参考文献などの情報を入力した（以下、青銅器と略して記載する）。

各青銅器の時期区分は、これまでに様々な研究者の説が提示されてきており、中には時期比定について意見の対立するものもあるが、今回は林巳奈夫氏の編年案をベースに難波のこれまでに起こってきた編年案をもちいて、決定した。世界測地系座標を取得するに当たっては、公表資料や入手可能な地図に制約があるため、遺跡自体の正確な位置がわからないものも多いのが問題であるが、とにかく、経度緯度の分の単位までは、手持ちの地図上の情報が間違っていないだろうとの判断

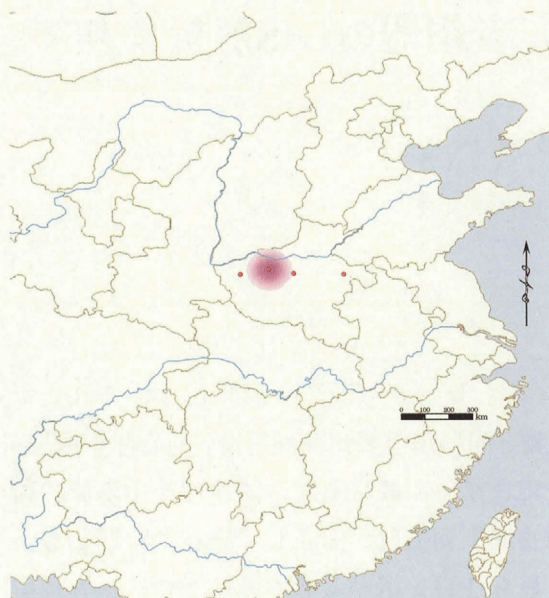


図1 二里头期の青銅彝器分布密度

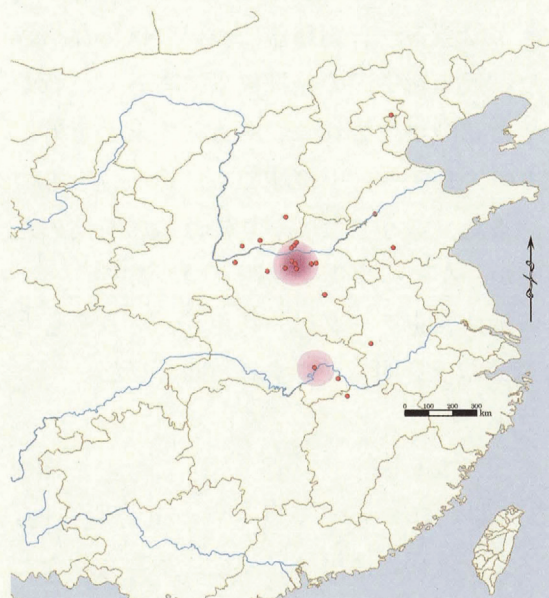


図2 商代前期（二里岡期）の青銅彝器分布密度

から、手作業で求めたものを入力した。しかし、例えば日本での座標取得が比較的容易かつ正確であるのに比べると、青銅器出土地の座標の精度ははるかに劣るので、今後の細密な地図と正確な座標の入手が望まれる。

3. 解析作業

Arc GIS のArc Mapを用いて、青銅器の座標をとりこみ、既存の地図上にのせた。次に課題を設定して出土地を抽出し、必要に応じてそれぞれの分布の等値線図を作成し、頭研究の課題である青銅器の広がり方について分析をおこなった。

(1) 時期差による青銅器の広がり方

青銅彝器は一般的に「二里头期に王朝の成立期に出現し、技術革新を経ながら器種を増して、複雑な造型が為されていく。同時に、その分布域が次第に拡大して、殷墟後期には、従来王朝の勢力範囲から大きく外れると考えられていた長江流域にも、青銅彝器がもたらされる」という理解がなされている。ここでは、こう

した分布の広がりを時期的に追うために、青銅器を筆者の編年案により、二里头期（夏王朝期？）、商代前期（二里岡期）、商代中期、商代後期（殷墟期）前半、商代後期後半、商末周初期、西周初期、西周中期に区分して、まず、その分布域の単純な変遷を示す。

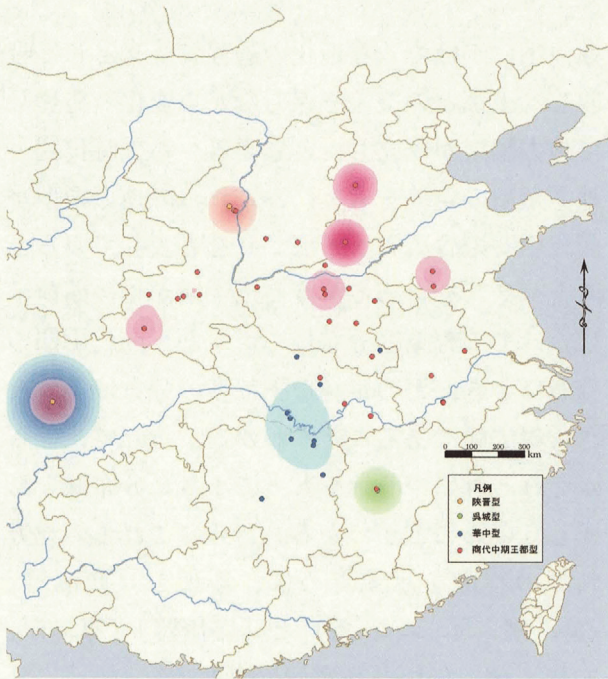


図3 商代中期～後期初頭の4つの地方類型

(2) 初期の単純な時期差による分布変化

二里頭期には、青銅彝器は偃師二里頭遺跡を中心とするごく狭い範囲にのみ分布する。分布は二里頭遺跡にほとんどが集中する。

次の商代前期（二里岡期）になると、当時の王都鄭州を中心としてやや分布域が広がるが、黄河より南方へ向かっているのが興味深い。実は鄭州は、黄河の南岸に位置する一方で、市内を流れる川は南東へと向かっており、最終的には淮河へと注いで

いる。よって、河の流路に沿って分布が広がっていく傾向があったのだろう。あたかも、この時期、商王朝を打ち立てた商族の故地という伝承のある商丘方面へと分布域が広がるかのようである。

(3) 商代中期

近年、鄭州の文化と安陽殷墟の商代後期とされる文化との間には、少しくギャップがあって、「商代中期」という時期をはさんで理解する必要があるという説を、筆者らが提唱している。この商代中期には、土器にみられる様相と同様、青銅器の分布域が黄河、長江流域の平原部各地へと一気に広がる事が明確にわかる。

(4) 地方類型の成立とその特徴

商代中期～後期の王都から離れた地方では、独自の特徴を持つ青銅器が発達してゆく。王都で発達した王都型を中心として、陝晋型、華中型、吳城型の3つの地方類型が存在すると筆者は考える。それぞれについては、従来、紋様や製作技法などの特殊性が個別に論じられてきたが、体系的な論議はほとんどなされたことがない。時期比定に関しても議論は混沌としているが、紋様などの観点から筆者のおこなった編年では、中商期に青銅器の理念と製作技術が広範囲に伝わった後、商代後

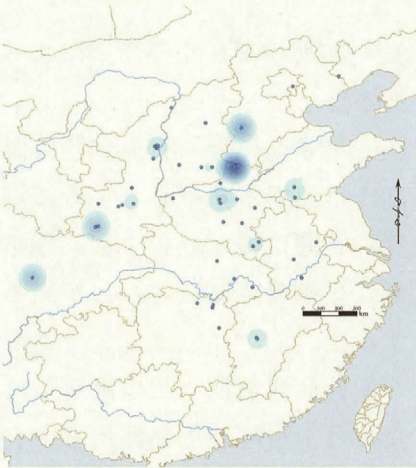


図4 盛酒器の分布密度

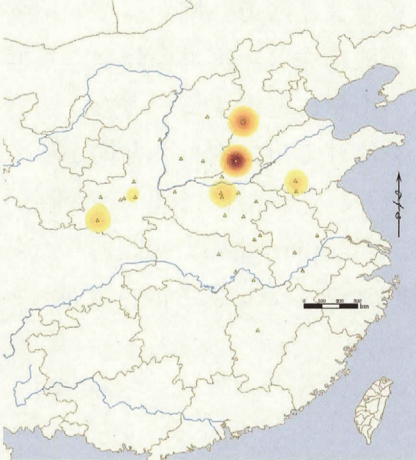


図5 食器の分布密度

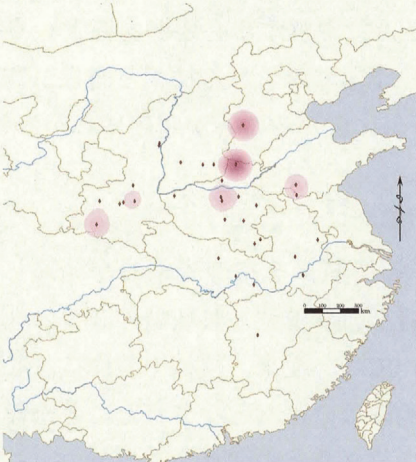


図6 飲酒器の分布密度

期前半にかけて、在地化の過程で要素として吸収し、王都との交流を保ちながら変化・発達して地方類型が成立したと考える。この時代観・地方類型の定義をもとに、これらの地方類型が商代中期の青銅彝器の広がりをも表していると考え、それを含めて再度商代中期から後期前半にかけての青銅器分布域を示すと、商代中期の分布はさきほどの単純な王都型の分布域よりもさらに広範であることがわかる。そして、分布がそれぞれに中心地をもって小さな分布域を形成していることがわかる。さらにこれらの地方類型の特徴を示すために、器種を「飲酒器」（爵、觚、斝、角、盃）と「盛酒器」（尊、甗、方彝、壺、卣）、「烹煮器」（鼎、鬲、甗）に分けて、分布域を示すと、飲酒器の分布域が最も王都近くに偏り、次に烹煮器、そして、盛酒器は最も王都から遠い地域まで分布域が広がっていることがわかる。

(5) 鉛同位体比との相関

以上のような分布域の変化は鉛同位体分析による青銅原料の入手ルートの変化とも相関がある。平尾良光氏らの研究によると、中国初期王朝期の青銅器原料中に含まれる鉛の同位体比分析によれば、時期によって、原料入手元が変化する。中商期～商代後期前半の青銅器に含まれる鉛から見ると、青銅器原料の入手先は四川・雲南ルートが全盛期であった。分布域の分析はこの状況を反映しているようで、まさに地方へと青銅器分布域が広がるこの時期は、原料入手先がはるか南の地へと飛躍した時期でもある。その後このルートが途絶えるのに伴い、地方

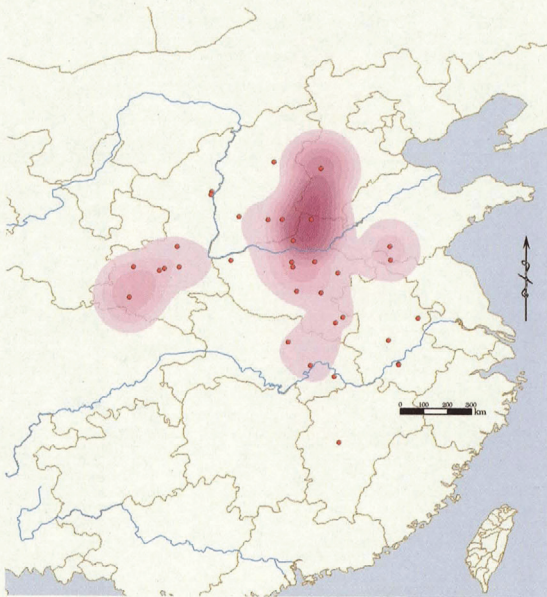


図7 商代中期～後期前半の分布密度

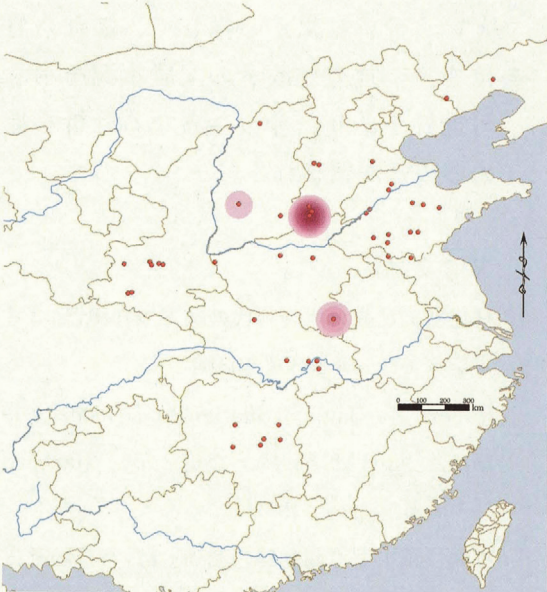


図8 商代後期（殷墟期）の青銅彝器分布密度

類型がほぼ消滅したと考えられる。

(6) 商末周初から西周初期

地方色はその後払拭され、商末周初期から西周初期には再び広範囲に中原製の青銅器が分布する。この時期には、商周革命という歴史的大事件がおこるが、黄河下流に近い商の地から、黄河上流に近い周の地へと中心地が変わるとい劇的な変化が、文化の交代として現れないか、との視点からの研究がたびたび試みられている。青銅器の上で殷ひとと周ひとの文化の差異は現れるのかを、GIS解析で示すことができるだろうか。この時期の青銅器には、図象記号といわれる簡単な記号を持つものがあり、青銅器を製作した人の出自などに関連があるのではないかとされており、辺境地で見つかるこうした図象記号をもつ青銅器は、各氏族が征服した証し、という説がたびたび語られる。主要な図象記号には「戈」「拳」「逆向き龍」「天」などがみられ、これらの図象記号を持つものは非常に広範囲に分布する。それらの分布は特に偏りもなく、必ずしも特定の

「戈族」「拳族」「龍族」「天族」が青銅器を携えて、各地を征服していったことを示すとは言いえないようだ。

次の西周前期～中期の青銅器の中には、長文の銘文をもつものが現れ、さらに製作の経緯などが記されているものが現れる。そして、「侯」「公」「伯」など、爵位を表す語を銘文に含む器の分布は、青銅器全体の分布が密なところに偏っている、

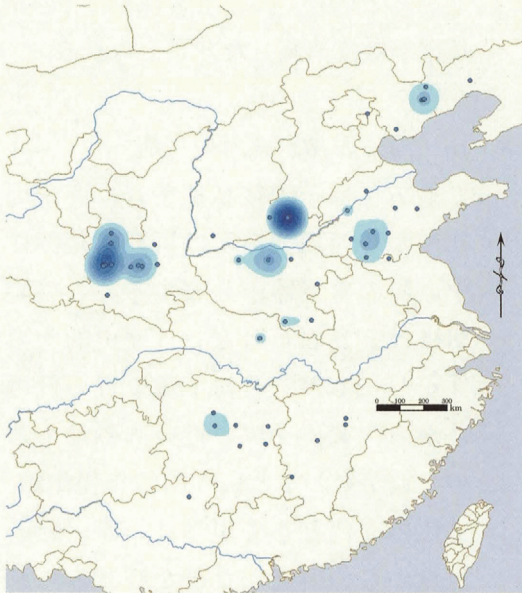


図9 商末周初期の青銅彝器分布密度

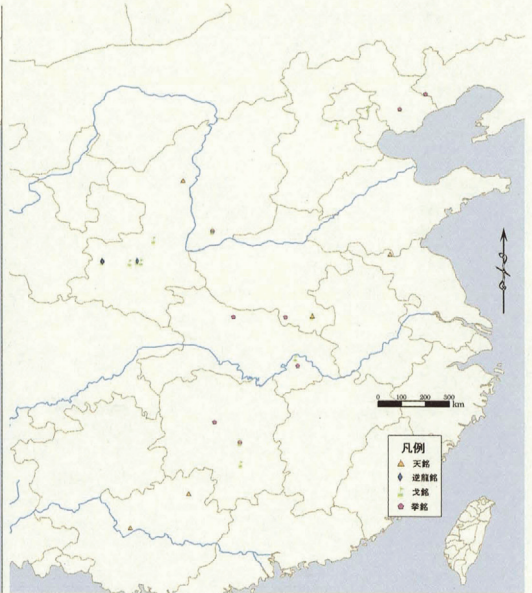


図10 主要な族徽記号の分布

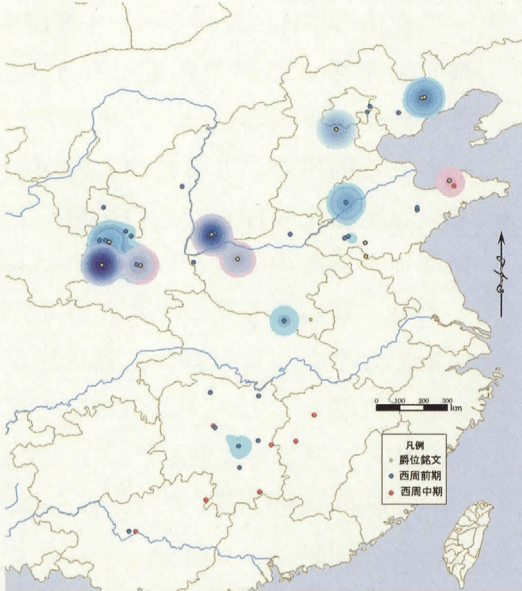


図11 西周前～中期の青銅彝器分布密度と爵位銘文

という分析結果から推して、これら爵位を持つ地方施政者の配置状況を示す可能性があり、今後さらなる分析を進めることが望まれる。

参考文献

林巳奈夫「殷、西周時代の地方型青銅器」『考古学メモワール1980』1981年

Robert W. Bagley, *Shang Ritual Bronzes in the Arthur M. Sackler Collections*, Harvard University press, 1987

拙稿「華中型青銅彝器の発達」『日本中国考古学会会報』第8号、1998年

Expansion of the Shang and Zhou Bronze Culture: GIS Data on the Distribution of Chinese Ritual Bronzes

Namba Junko

Tenri University

This study followed the changes in the distribution pattern of early types of Chinese ritual bronzes over time by using a geographic information system (GIS). An original database of bronze ritual artifacts of known origin, mostly vessels and musical instruments, was built for the project, specifying for each item as the artifact type, chronological period, decoration pattern, size, and the inscription, as well as the location of the site where the item had been discovered, the WGS (World Geodetic System) coordinates of that location, the type of the site. Each object was chronologized into eight periods, defined according to Namba: 1) the Erlitou period (the Xia dynasty?), 2) the early Shang dynasty (the Erligang period), 3) the middle Shang dynasty, 4) the first half of the late Shang dynasty (the Yinxu period), 5) the second half of the late Shang dynasty, 6) the latest phase of the Shang dynasty to the beginning of the Zhou dynasty, 7) the early Western Zhou dynasty, and 8) the middle Western Zhou dynasty.

Originally confined to a small area in the central plain along the Yellow River Valley, the ritual bronzes began to be spread to other parts of China during the Erlitou period and the early Shang dynasty period (the Erligang period). Its geographic coverage expanded dramatically during the period of the middle Shang dynasty, reaching most of the plains along the Yellow River Valley and Yang-zi River Valley. Not only the technology of the ritual bronzes, but also the conception of the bronzes wares and patterns were distributed to wide area, so these traditions were assimilated and localized, four main styles were established in final; Capital style, the Shan-Jin style, the Middle Southern style, and the Wucheng style. The GIS map of the distribution of bronzes during this period shows that each of these styles had predominant center. Another map by highlighting the vessel types shows that the area of distribution of wine serving vessels was closest to the capital, followed by that of cooking pots, while that of wine containers spread farthest from the capital.

Regional variations then disappeared, and the major style bronzes produced in the Central plain were so widely spread over China, including the area of local styles, in the end of the Shang dynasty to the beginning of the Zhou dynasty. Unfortunately the historical big

event "Zhou Conquest of Shang" cannot be shown clearly by the GIS analysis like as the clan sign inscriptions.

Meanwhile, the bronzes with inscriptions for noble titles, such as "Marquis," "Duke," and "Earl," are discovered in points where bronzes are concentrated, and this fact may suggest that the distribution areas of those inscriptions matched that of local officials.